

宗 像

1月祭事暦

1日	歳旦祭
午前7時	総社地主祭
午前9時	総社祭
	総社祭に引き継ぎ
	高宮地主祭
	高宮祭
	第二宮・第三宮祭
	末社祭
2日	
午前9時	新年祭
3日	
午前9時	元始祭
午前10時	宗像國神社新年祭
10日	
午前11時	恵比須神社祭
13日	
午前11時	獻米奉告祭
15日	月次祭並成人祭
午前10時	高宮祭
	第二宮・第三宮祭
午前11時	総社祭
	成人祭

平成十九年・丁亥 ひのとる 年頭挨拶



宗像大社 宮司 神島 定

輝かしい平成十九年丁亥年の初春を迎え、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、併せて氏子・崇敬者皆様方の益々の御繁栄と御健勝を心よりお祈り申し上げます。

平素より、氏子崇敬者の皆様方の真心からなる御奉賛を賜り、御蔭を以ちまして当大社恒例の諸祭儀が総て恙なく斎行され、数多くの神賑行事も無事盛大に執り行うことができました。これも偏に皆様方の赤誠の賜物と深く感謝申し上げます。

昨年九月六日、秋篠宮・同妃両殿下の第三子として待望の親王殿下が、皇室では四十一年振りに誕生され、日本中が喜びの声で沸き立ち奉祝の誠が捧げられました。九月十五日には命名の儀が行われ、御名前は「悠仁(ひさひと)」、お印は「高野槇」と決まり、当大社でも御生誕奉告祭を斎行し、健やかなる御成長を御祈念申し上げます。

また、皇室と共に国民の心の上りどころであります伊勢の神宮では、平成二十五年の第六十二回式年遷宮斎行に向けて、着々と準備が進められ、長野県の本曾・裏木曾に定められた御柚山から、その数一万本とも言われる御用材の檜が次々と伐り出されました。この御用材を、伊勢の内宮・外宮へと曳き入れる、第一次お木曳行事も五月から七月にかけて行われ、神都・伊勢には全国から一日神領民も加わり熱気に包まれたと聞いております。五月九日、この伊勢の神宮より北白川道久大宮司が当大社に御参拝いただきま



した。かねてより参拝を望まれており、来福された折に宗像を訪れ、神宝館では沖ノ島祭祀の展示を興味深く御覧になられました。当大社の昨年を顧みますと、正月の賑わいも落ち着きを見せ始めた一月二十九日、当大社を篤く崇敬する越本隆志選手(三十五歳)が、日

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成十九年 元旦

宗像大社職員	宗像大社責任役員会	宗像大社氏子会
名譽宮司 義父 守	代表役員 神島 昭定	会長 安部 照生
宮司 神島 可愛	責任役員 出光 昭介	副会長 佐藤 千里
権宮司 高向 正秀	長尾 重夫	岩佐 昭正
権宜 堤 幹之	麻生 豊泰	中野 政夫
渡邊 秀丸	田中 浩二	城野 政登
杉山 安彦	清水 晃	古屋敷清文
佐々木大治	谷 正明	村田 政夫
中原 裕生	野村吉三郎	大嶋 和敏
坂本 敬	高原文雄	久保田正和
御床 直之	桑野 直迪	宗像大社・中宮奉賛会
大塚 宗延	松井 参伍	会長 佐藤 千里
長友 貞治	義父 茂守	副会長 古賀 敏明
飯田 明拓	久保 茂道	
松林 拓		
吉野 理		
重住真貴子		
重田 法子		
河東あいこ		
神野 京子		
白土 景子		
清水 亜矢子		
福田 祥子		
白澤佳緒里		
大和 春奈		
木原 晶子		
小方麻紗美		
寺嶋千賀子		
白石はな絵		
北村夏菜絵		
松嶋 理加		
古賀 典秀		
石津 律子		
岩佐 光二		
吉田 弘		
深田 仁		
井上 光生		
奥宮 種男		
阿部 和代		
竹本百合子		
西野百合子		
非常勤管理員		
力丸 正輝		
藤田 行子		
藤島ツタエ		
非常勤事務員		
藤井 啓子		
神島 咲子		
夜警員		
橘 正信		
嘱託		
吉田 義秀		
中野 正幸		
砂場 一明		
石井 忠		
河津奈津子		
非常勤講師		
大野 展男		

本ボクシング史上最年長での世界王座獲得というニュースが伝えられました。更に二月八日には、水産庁で組織される選定委員会で「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に、「中津宮」と「みあれ祭」が選ばれ、農林水産大臣より認定書が交付されました。新春早々の明るい話題でした。

また、「海の正倉院」と称される沖ノ島より出土した膨大な数の出土品の整理調査を、五年の歳月をかけた行つて参りましたが、その結果沖ノ島の祭祀遺跡に奉獻された神宝が約八万点に上ることが確認され、六月九日付の「官報(号外第一三二二号)」で全て国宝に一括指定されました。これに伴い、秋には神宝館において宗像・福津両市と共催で企画展を行い(詳細今月号掲載)、地域文化の振興に少しでもお役に立てたのかなと感じております。

更に、神社界においての交流をより密にできればと、夏には斎藤投手の活躍で甲子園が湧き上がる中、隣の淡路島で開催された第三十回東西神社人野球大会に、九州より太宰府天満宮・宗像大社の合同チームで参戦。十月には神道国際友好会の十八年度総会をお世話させていただき、「随神の道」に動しむ同士と斯界

の興隆を誓いました。尚、東西神社人野球大会では、初参加ながら準優勝を飾りました。

一方、当大社を篤く御崇敬いただく皆様方の御要望に少しでもお応えできればと、九月より従前は「清明殿」でのみ斎行して参りました神前結婚式を、拜殿でも行えるよう体制を整えました。その結果、現在では神前結婚式申込の大半が、本殿での結婚式となつております。また、皆様に好評でした宗像大社のハンドブック「むなかたさま」が、長らく絶版となつて参りましたが、秋季大祭初日の十月一日に合わせ再版され、氏子の皆様や多くの宗像大神を崇敬される方々に御愛読いただいております。

さて、皆様ご周知の通り、平成十四年より「沖ノ島を世界遺産へ」という取り組みがなされて参りましたが、十一月二十七日、福岡県並びに宗像・福津両市より、「沖ノ島と関連遺産群」を、世界遺産登録候補地にと、文化庁へ提案、申請されました。登録されるには暫定リストに入る必要がありますが、今月中には結果が判明します。この取り組みに尽力されてこられました方々の熱意が成就されますことを、切にお祈り申し上げます。

末筆乍、本年平成十九年も氏子崇敬者の皆様方には、「道主貴」と称し、導きの神であります宗像大神の御神慮を蒙り、輝ける年でありますようお祈り申し上げますと共に、倍旧の御鞭撻、御協賛を賜りますようお願い申し上げます、年頭の御挨拶と致します。



連日満車の第一駐車場



本殿授与所の賑わい



開門と同時に駆け込む参拝者

GA

画像情報企業

株式会社 ゼネラルアサヒ

〒812-0064

福岡市東区松田3丁目777番地

TEL 092-611-8311

FedEx Kinko's.
Office and Print Services

GA

デジタルグラフィックス研究所
宗像市アスティ1丁目5番地

平成十九年迎春の準備 大注連縄を懸け替え

十二月九日、新年を迎えるにあたり

つて辺津宮の御本殿・第二宮・第三宮の大注連縄懸け替え奉仕が行われ、藁の香りが漂う、真新しい注連縄が、大島の沖・中両宮奉賛会・同翼賛会、田島の総代・協力会ら約三十名の御奉仕により無事取り付けら

れた。

注連縄の奉製作業はまず「藁すくり」から始められる。十月初旬に刈取った稲を懸稲(畦懸け)にして天日で乾燥させ、十一月初旬に脱穀した後、地元田島の総代・協力会の方々が総出で、一握の藁束を約千五百本程作り大島へ送った。



大島では十一月下旬に沖・中両宮奉賛会・翼賛会の皆様の御奉仕により、時化の時を見計らって大注連縄が納められた。当大社の注連縄は中央部分をかなり太めに作る「鼓胴型」と呼ばれる型だが、二本の束を縫り合

わせる作業は大変難しく、長年の経験と試行錯誤により三十年余りも受け継がれてきている。

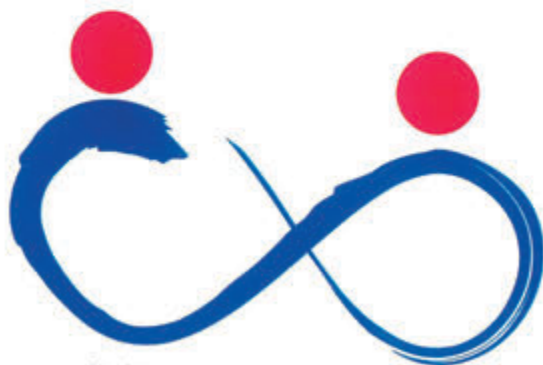
完成した大注連縄は、大島から海を渡って辺津宮へと運ばれ、先ず辺津宮、次いで第二宮・第三宮が懸け替えられた。

作業終了後には直会が催され、大島・田島双方が分担した苦勞話で大いに盛り上がり、終始和やかな内に終了した。

近年、農機具の機械化により「藁」の入手が難しくなっていたが、平成八年に当大社御神田が復活し、神儀米の収穫を得て年間のお供えと、不足ぎみだった藁の確保が出来る様になった。

また、当大社の大注連縄は藁がばらばらになることの無いようにと、大島の漁師の発案で、ブリなどの大物を釣り上げる

時に使う透明のテグス(太い釣糸)が等間隔で美しく巻かれていた。初詣参拝の折には、農家と漁師が思いを込めて奉製された大注連縄もご覧下さい。



響きあって九州

あなたとともに西日本新聞

創刊130周年

本社
〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号
TEL092(711)5555代
FAX092(711)5152

東京支社
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-7福岡ビル
TEL03(3273)8585
FAX03(3273)8586

大阪支社
〒541-0041 大阪市中央区北浜3-1-21松崎ビル
TEL06(6202)6351
FAX06(6202)6356

北九州支社
〒803-8515 北九州市小倉北区田町19-5
TEL093(561)1131
FAX093(561)7793



古式祭 鎮火祭 齋行

◆古式祭◆

師走十七日(日)、八五〇年の伝統を持つ「古式祭」が斎行された。この神事は神前で行われる祭典と、清明殿で行われる「御座」の二



つで構成され、神饌(御供え物)は神職だけではなく地元宗像市田島・江口区民、地元総代等が一丸となつて調製し、御座は田島区内八班の氏子が毎年交代で奉仕する(今年は上殿班)という宗像地方独自の神事である。

祭典はまだ夜が明けない暗闇の午前六時、前日から参籠(参籠)神社に泊まり世俗との関わりを断つこととした神島宮司以下神職が奉仕し、宗像市田島・江口両区長、御座の当番班の班長、地元総代が参列し齋行された。



の原種である「九年母」、同市の浜にこの時期しか打ち上がらない「ゲバサモ」と呼ばれる海藻など、この祭典だけに調製された特殊神饌が供えられた。

一方、清明殿入口には午前五時頃より、同六時の「御座」受付開始を待ちわびる参拝者の列が出来た。御座の一番座は、祭典後の午前六時三〇分から一座五十名で始まり、本年は五番座まで約二二〇名が参列された。膳には特殊神饌として神前に供えられたものや、田楽・ガメ煮・甘酒・なま酢などが並び、参列者は平素口にするのできない御膳に舌鼓を打ちながら、神人和楽の一時を過ごした。

明けましておめでとうございます。
今年もよろしく
お願いいたします。

 福岡銀行

宗像支店
宗像市東郷5-4-5
TEL 0940-36-2017

赤間支店
宗像市土穴2-1-17
TEL 0940-33-7211





◆鎮火祭◆
同日午前十時からは鎮火祭が行われ、古式ゆかしく火打石で忌火を起こし、瓠(くわ)で水を汲み火に注ぎ忌火を鎮め、その上に赤土をかけ川菜で覆う「鎮火の儀」が行われた。
迦具土神の荒びを鎮め、その災いを受けることの無いようにと、火災の絶無と消防関係者の安全を祈り、谷井宗像市長、池浦福津市長をはじめ、両市内の消防関係者、山田県議会議員、渡辺宗像警察署、氏子代表者らが参列し、敬虔な祈りを捧げた。

宗像警察署が十二月一日午前九時三〇分より、当大社第一駐車場で、年末年始特別警戒活動と交通安全県民運動の出陣式を行った。
式には警察官をはじめ約九十名が参加。当大社からは神島宮司が来賓として参加し、三年目の清水巫女が巫女としては初めて一日警察署長を務めた。
定刻、清水巫女は平素の緋袴姿を婦人警官の制服に装いを改め、渡辺哲郎宗像警察署長と共に署の公用車で登場。式が始まると、緊張した面持ちで服装や車両を点検する部隊視閲をし、「皆さんの活躍に期待しま



巫女が一日警察署長を務める
～年末年始特別警戒出陣式～

す」と挨拶した。
その後、渡辺署長が「住民の安心と安全を守ることに、我々の最大の使命と再認識しよう」と訓示され、続いて、池浦順文福津市長が来賓を代表して挨拶された。
その後、宗像地区消防本部有志により「防火太鼓」が披露され、署員らは白バイ、パトカーなど二十二台の車両に乗って街頭に出発した。
師走ともなれば気忙しくなり、防犯への対応も一段と気を引き締め臨まなければならぬ時期。警察署、駐在所等関係者のご苦勞も大変かと存じますが、事件・事故のないよう尽力される姿に、改めて感謝すると共に敬意を表します。



株式会社テムザック 実用ロボットで皆様の暮らし・お仕事をサポートします



レスキューロボット
援電



案内ロボット



受付ロボット



お留守番ロボット
ロボリア

北九州市小倉北区木町1-7-8
TEL 093-581-3520
URL www.tmsuk.co.jp

援電
受付・案内ロボット
ロボリア

www.enryu.jp
www.onchikai.jp/robot
www.robotrior.com

Practical Robotic Solutions
tmsuk

第八回 出光興産(株)中堅社員研修

〈今回より班別討議を開始〉

出光興産の中堅社員を対象とした第八回目の社員研修が、十一月二十四～二十六日の二泊三日で、全国からの研修生三十二名に出光本社沖宏伸人事部長以下四名の計三十六名をお迎えし開催された。

出光興産とその関連企業は社員数六

五〇〇人を誇る大企業、再会するのは入社式以来、或いはほとんどが初対面という方々であった。

また、今年十月二十四日に創業九十六年目にして東証一部に上場して迎える、初めての研修であった。

これを受け、かねてよりの要望でもあ

り、店主室教育時代(六十五期まで開催)には行われていた「班別討議」を復活させた。その為、集合時間を二時間半早めての開催となったが、研修生、人事部からは大変好評で、さらには時間を延長して行いたいとの要望が、終了時に早速出された。

十二月二十四日(一日)

研修生には、この二泊三日の研修期間を神社境内で過ごしていただくため、まず白衣・白袴の着装・畳み方から研修に入った。恐らく最初で最後となるであろう白衣・白袴に戸惑いながらも何とか着装を終え、各班毎に潔斎場へ移動し潔斎、再び白衣・白袴に着装

した。

続いて、神社祭作法と「大祓詞」の講義であったが、祭儀部の神職が総出て祭式作法の基礎を約四時間に亘って指導した。

その後、出光興産の山元教育課長による「店主と宗像大社について」と題した出光興産側の講義が行われ、夕食後は高宮齋場へ移動しての鎮魂。

浄土の参道を懐中電灯の灯りを頼りに進み、玉砂利の敷かれた露天祭場中正座。一同で大祓詞を奏上した後、神職による「鎮魂はじめ」の声で全ての灯りが消され、耳にするのは木々の葉音や虫の鳴き声のみの中、約三〇分間の鎮魂を行った。時間が経つにつれ、足のしびれから苦悩の表情を浮かべる方もおり、「鎮魂やめ」の声で一同安堵の表情を浮かべられていたのが印象的であったが、経験された方ではか味わえないものを感じていただきたように思う。

その後、各班毎に順番で潔斎。初日の日程を終えた。

十二月二十五日(二日目)

二日目は潔斎、境内清掃、朝拝がスムーズに行われ、朝食後神宝館を見学。建國を彩る宗像大神の歴史を、約八万点の国宝、二万点の重文という膨大な出土品を通して感じていただいた。

伊藤彌直による御由緒の講演後、昼食をとり、午後からは白衣白袴をスー

に着替え大島へ渡島。中津宮・沖津宮通拜所・御嶽宮を参拝したが、生憎の曇りであった為か、沖ノ島を目にすることは叶わなかった。

辺津宮に戻ると、スーツから白衣に着替え、班別討議。各班ごとに神職が付き、研修生が自由に質問するというものがあったが、どの班も予定の一時間では足りず、時間を延長する班が相次いだ。

その後、夕食をとり鎮魂。二日目を終えた。

十二月二十六日(三日)

最終日は、朝から雨の降りそうな天候であったが、潔斎、境内清掃後、研修終了奉告祭を行い、宗像大社における全ての日程を無事終えた。

そして白衣・白袴からスーツに着替え、社務所前に整列される頃になると、別れを惜しむかのように雨が降り出し、神島宮司以下全職員の見送りを受けた。次の研修地へ出発された。

一行は、宗像市赤間にある店主墓参をし、福岡空港から千葉の平川寮へ向かい、そこで十五日間の研修に入るとのことであった。

二泊三日という短期間であったが、この宗像大社で過ごした時間が、研修生の日々の生活で、一人一人の長い目で見た今後の人生でお役に立つことを切に願う、研修生皆様の今後益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。



12月26日 (3日目)

- 6:00 起床・洗面・潔斎
- 7:00 朝拝準備・境内清掃
- 7:30 朝拝(研修終了奉告祭)
- 8:00 朝食・着替え
- 9:30 出発

宗像市赤間の店主生家見学・店主墓参
福岡空港より千葉・平川寮へ移動



12月25日 (2日目)

- 6:00 起床・洗面・潔斎
- 7:00 朝拝準備・境内清掃
- 7:30 朝拝
- 8:00 朝食
- 8:40 神宝館見学
- 9:50 記念撮影
- 10:00 宗像大社御由緒講義
- 12:00 昼食
- 13:00 筑前大島渡島
中津宮・沖津宮遥拝所・御嶽宮参拝
- 17:40 班別討議
- 18:40 夕食
- 19:30 鎮魂
- 20:30 入浴・就寝

12月24日 (1日目)

- 10:00 全国各地から研修生が当大社に参集。
- 10:15 開始奉告祭に参列後、研修日程に入る。
- 10:45 神島宮司開講挨拶
- 11:00 冲人事部次長講話
- 11:40 出光担当者行程説明
- 12:10 昼食
- 13:00 白衣・白袴の着け方、潔斎けっさい
- 14:45 神社祭式作法(朝拝演習)
- 17:45 講話=店主と宗像大社について
- 18:40 夕食
- 19:30 鎮魂
- 20:30 入浴・就寝



宗像地域の歴史に関心集まる

～沖ノ島祭祀と宗像・福津の文化財展が閉幕～

当大社神宝館で開催されていた沖ノ島祭祀遺跡出土品の国宝一括指定を記念する特別展が閉幕した。10月28日～11月26日までの会期中、県内外より多くの方が来館し、館内は大変な賑わいをみせた。

菊花展や七五三参りなどの諸行事が重なる時節柄、来館者の顔ぶれは、古代史学・考古学の愛好家、専門家から、菊の観覧やお参りに訪れたお子様連れのご家族まで様々であった。

本展覧会は、福岡県教育委員会が実施する県内文化財一斉公開イベント「ふくおか歴史彩発見」の一環で、古代の宗像地域の歩みを広く知って頂くことを目的に、宗像市、福津市、当大社神宝館が協力、企画して、開催が実現した。

展示では、沖ノ島で大和朝廷が行った航海の安全を祈る祭祀と、それを支えた古代豪族「胸形一族」に着目し、沖ノ島出土の国宝、宗像本土出土の古墳副葬品や集落遺物から、一族が沖ノ島での祭祀を介して有力な首長へと成長していく様子を解き明かした。拝観者からは、「沖ノ島の神々しさ、祭祀奉獻品の荘厳さに魅了された」、「古代の宗像の人々が先進的の文化と技術を持ち、大和朝廷とも密接に関わっていたことを知り驚いた」との声が寄せられた。

宗像地域の歴史の特異性や重要性は、学術的には常に注目を集めるところであるが、一般の方々の認知は未だ低い。しかし、展示品をつぶさに見つめる人々の姿から、今後、堅実に学術成果の還元を進めていけば、宗像地域の歴史に関心が集まっていく予感がした。この度の展覧会が、宗像地域の文化啓発に良い形で繋がっていくことを強く願う。



▲開会式のテープカット



▲展覧会ポスター



開会式の様子

エアコンの
取付工事も
OMAKASE!

キッチンの
リフォーム工事も
OMAKASE!



お風呂やトイレ
配管工事も
OMAKASE!

床暖房の
工事も
OMAKASE!

住まいのことなら、何でもおまかせ。



新年祈願祭のご案内

元旦午前零時～ 一番祈願祭 以後随時齋行

日本書紀で「道主貴みちぬしののち (あらゆる道に通じる最高神)」と称される宗像三女神様の下で、新しい年の初めに、ご家族で、職場で御祈願をお受下さい。

「諸祈願祭」(※1)

- <場 所> 本殿 または 儀式殿
- <初 穂 料>
 - 会社・団体 10,000円～
 - 家庭・個人 5,000円～
 (初穂料により、授与品が変わります)
- <授 与 品> 神札 又は 御守、紅白御幣、供物、御神酒など



「交通安全」

- <場 所> 祈願殿(大駐車場前)
- <初 穂 料>
 - 大型車 6,000円
 - 普通車 5,000円
 - 二輪車 3,000円
- <授 与 品> 水引守(大)、紅白御幣、供物



※1「諸祈願祭」

(会社・団体)業務安全・業務繁栄・商売繁盛・交通安全・海上安全など

(家庭・個人)家内安全・厄年祓・厄除祈願・心願成就祈願・学業成就・試験合格祈願・初宮詣・良縁祈願

祭りごよみ復活

故・西島伊三雄先生のイラストで宗像大社の祭事をおったカレンダー「祭りごよみ」を十年振りに復活させました。

今回イラスト、デザインをお願いしたのは、西島先生に師事されたこともあり、「むなかたさま」の編集や、菊花展、初詣ポスターを制作いただいた土井国男氏です。

かわいいイラストで描かれ、宗像大社の祭事を月ごとに御覧になれます。

※ 各授与所にて 初穂料=500円 でお頒ちしております。

※ 尚、御祈願をお受けいただいた方には、御供物と共に御渡しております。



TOYOTA

福岡県トヨタ販売店グループ

🌿 謹んで新年の御祝詞を申し上げます 🌿

福岡トヨタ自動車株式会社

取締役社長 金子 直幹

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号
電話(092)761-3331

トヨタカローラ福岡株式会社

代表取締役社長 有田 耕一

〒810-8603 福岡市中央区長浜2丁目1番5号
電話(092)712-7111

ネットトヨタ北九州株式会社

取締役社長 宮里 宣哲

〒806-0041 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号
電話(093)642-2111

福岡トヨペット株式会社

代表取締役社長 山口 正俊

〒812-0008 福岡市博多区東光1丁目6番13号
電話(092)411-1121

トヨタカローラ博多株式会社

取締役社長 久恒 兼孝

〒812-0042 福岡市博多区豊2丁目3番50号
電話(092)441-2111

こさつおさめしよ
古札納所の御案内



1年間お護りいただいた古い御守・御札は、神門前の「古札納所」でお受けいたします。

当大社では巫女がご参拝の皆様より手渡しでお受けするにしております。

お護りいただいた感謝の念を込めましてお返しいただき、新たな御守・御札をお受けいただきますよう御案内申し上げます。

尚、古札として納所でお受けするのは左記の通りです。

- ◆御守・御札
- ◆縁起物(破魔矢・熊手)
- ◆正月飾り(注連縄)
- ◆神棚

特に陶器・ガラス・金属製のものは、お焚き上げできませんので御遠慮下さい。

御不明の点は、境内の各職員にお問い合わせ下さい。



謹んで新年の御祝詞を
申し上げます
平成19年 元旦



有限会社 **ハーベスト警備**
福岡県公安委員会認定第581号
代表取締役 坂上 正晴
〒813-0044 福岡市東区千早5丁目21-2サンビル2F
TEL (092)673-0180 FAX (092)673-0190



福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役社長 内山 邦彦
〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目10番11号
電話(092)411-1330【代表】



福岡国際カントリークラブ
〒811-4146 福岡県宗像市大字朝町1470-1
電話(0940)32-3544【代表】



社団法人 **日本自動車連盟 九州本部**
JAF 本部長 金子 宜嗣
〒814-8505 福岡市早良区室見5-12-27
電話(092)841-7676【代表】



玄海灘を望む風光明媚な格調高いシーサイド・コース
玄海ゴルフクラブ
〒811-3502 福岡県宗像市江口578-18
電話(0940)62-2233【代表】
FAX(0940)62-2728



厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習でありますが、厄年を迎えるとき、我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちで過ごしてください。

八方塞

はっほうふさがり
陰陽道でどの方向に向かつて事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事を始める方は要注意と言われています。

暗剣殺

あんけんさつ
「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

厄年年齢表

昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和37年	昭和31年	昭和28年	昭和23年	昭和22年	昭和21年	昭和19年	昭和13年	昭和10年	昭和4年	昭和元年	大正9年	大正6年	生まれ年
前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)・暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)	大厄(男)・暗剣殺	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
平成13年	平成10年	平成4年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和59年	昭和58年	昭和57年	昭和55年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和47年	昭和46年	昭和45年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)・暗剣殺	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)・暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	厄



節分祭の御案内

日 時 2月3日 (土)
節 分 祭 午前10時～
豆 打 式 祭典終了後～
場 所 祈願殿 (大駐車場前)



謹んで新年の御祝詞を申し上げます

玄海国定公園の中心
—風光明媚、生魚料理、宗像大社となり—
玄海ホテル旅館組合

海 宴 会	国民宿舎ひびき	みなと荘	松 風 荘	は ま 荘	はなわらび	高嘉旅館	神湊スカイホテル	玄海ロイヤルホテル	玄海旅館	魚屋別館	魚屋本店	泉 館
六二一〇二〇〇	六二二二二八八	六二二二二五五	六二二二二二〇	六二二二二五〇	六二二二二〇七	六二二二二二二	六二二二二八〇	六二二二四一一	六二二二四〇一	六二二二三五五	六二二二二二二	六二二二〇三五

(続)

浜の寄物

210



いしい ただし

鐘崎は日本海女の発祥の地といわれ、鐘崎の入口近くの上八には、森林に囲まれて、小高くなったところに、柵に囲まれた「鐘崎貝塚」が保存されている。玄界沿岸には珍しい、三千年前の縄文時代後期の貝塚で、ここから出土した土器の文様は、鐘崎式と呼ばれ、縄文時代後期の標式土器である。

この周辺の松林の中や砂丘地には、弥生・古墳時代の遺跡が点在するが、現在のところ海女と直接結びつくような遺跡や遺物がないのは、未調査のところが多いからであろうか、ただ鐘崎周辺からは、弥生時代の青銅器や、田野の瀬戸古

墳は六世紀代の前方後円墳もあり、この地は有力者の存在が推察される。神護景雲元年(七六七)僧寿応の奨めで宗像大領宗像朝臣深津と、妻の竹生王に鐘崎に船瀬を築き、その功で位を授けられたことが「続日本紀」に記載がある。鐘崎には式内社の織幡神社もある。考古から歴史時代まで連続と続いている。

そして近世になると、にわかに「海女」が活動しはじめる。鐘崎海女の移動を泉福寺の過去帳から調べた伊藤彰は、対馬・五島・日本海のコースに分けて追っている。その出発点や鐘崎海女の各地の拡散から、「発祥の地」とされたのであろうか。

玄海町が宗像市と合併して、鐘崎民俗資料館は、宗像市民俗資料館と名をかえた。久しぶりに館を訪ねてみた。



史料館海女



朽ちつつある木造船

こんな道びもよい

館はシンプルになっていた。海女資料と漁具類、周辺の農具類が一緒に展示されていたのが、農具を別の部屋に移してしまった。少し空間がふえたので、漁具類を用途別にすると、分かりやすくなるのではないだろうか。あるいはテーマをかえながら展示する方法もある。展示できる収蔵物は倉庫に豊富にある。



二階は、海と交わる、船の発達人の移動、豊饒の海へ、海人の移動(1)、海人の移動(2)、海女のふるさと、鐘崎の伝承、さつき松原の松植立、海岸線の変化と、九項目からなるパネルで解説されている。

既に開館から九年目でやっと展示が変化している。板橋さんともう一人の女性の努力であろう。しかしこの館もやがて、アクシス玄海の方へ移動するという。海女のふるさとの地は、やはり鐘崎に置くべきではないかと思った。それに入館料は無料がいい。市町村の資料館は有料は数館である。

館のすみの方に和船(手こぎ船)が五、六隻置いてある。そのほとんどが朽ち果てようとしている。早く館内か雨風のあるところ、に保存すべきであろう。もうこの手の木造船は宗像・糟屋では残っていない。しかもまだ船霊様も残っていた。

謹賀新年

新しい年が素晴らしい一年となりますよう
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

2007年元旦



ダイドードリンク株式会社
九州支店
092-663-2171

ダイドードリンク株式会社
福岡南営業所
092-574-4642

ダイドードリンク株式会社
福岡東営業所
092-663-2310

ダイドードリンク株式会社
北九州営業所
092-621-3741



第五四五回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メロ

福津市

若木台

野間 精一

評 艦艇の今朝は見えざり呉沖を水上バイクの若きらが行く
軍港としての役割を回復しつつある恐れが伏線としてある一首。
ただ「ざり」は「さる」の連体形にして呉沖につなげた。

うきは市 浮羽町

向 則正

評 七輪に炭火をおこし秋刀魚焼く煙の中に母の影うく
七輪で魚を焼くこと自体が懐しい風景ゆゑに一段と母の影が立ちあがる。

北九州市 戸畑区

田中 ハツセ

評 野球帽かぶりし吾子は五十九の誕生迎へ吾が前に立つ
上句は「野球帽かぶりし子」として、過去であることを明確にしたい。

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

評 柵越しに身を寄せてくる隣り家の犬に声かけ間引葉洗う
犬と作者のスキンシップの図である。ただ一、二句が判りづらい。

福津市 星ヶ丘

佐々木 和彦

評 石尊にもまぎれる雑魚のいるらしく水際の鷗囀入れぬ
目の聡い鷗に心寄せながら己の気持のやさしさも伺わせる作。雑魚は雑魚としたい。

宗像市 田久

巻 桔梗

評 ふかふかと頭の見えぬまで本殿に背を折る少女の願をし想ふ
佐々木作品が胸や雑魚に心を寄せるのに対し、巻さんは少女に心を寄せている。それだけ人間くささがある。

宗像市 田野

森 甲子

評 久々の雨に煙霧の洗はれて孔大寺の銀杏まだ青々し
白露の頃の微妙な時節の動きをうまくとらえている。孔大寺の個有名詞が効いている。

福津市 中央

池浦 千鶴子

評 音もなくバス近づきて急げどもわが心臓の衰へのみ知る
近づいてきたバスだが、意のままに動かない身体、心身のおとろえを嘆く一首。

福津市 光陽台 香月 照子

評 さよなら過ぎ去った日はもどらない病床にいて季節は過ぎる
気持は判るが、述べ方がやや観念に流れたのが惜しい。

宗像市 大井 木原 ふさ子

評 息子らの演奏会に出て来たりホルン吹く子をおぼろに見つむ
三句は「聴きにきて」ではないか。

福津市 在自 増田 武光

評 山あい紅葉は日々深まりて三軒村の朝を彩る
三軒村が遠く秋のあわれさを一層深くさせている。

宗像市 日の里 大和 美由紀

評 湖風にゆつくり廻る風車きらりきらりと秋日を返す
湖の風だから、下句の具体が生きている。

宗像市 池田 森 龍子

評 掃き寄せし落葉にばらり軽き音椎の実秋の陽に飛ばさるる
遠く秋の一点景。二句から三句にかけては「軽き音たてて」の方が、つづく四、五句をより生かすだろう。

宗像市 東郷 山口 節子

評 名月に誘はれ遂に社まで月が案内した銀杏の在処
月に誘われた、そぞろこころで面白いが、四句は「きたりて知りぬ」ではないか。

宗像市 ひかりヶ丘 清水 亜矢子

評 霜月に境内色どる菊の花菊にも負けぬ着飾る子供ら
菊の花と妍をきそう子供達、華やかな風景である。初句は「霜月の」四句は「負けず」とする。

北九州市 八幡西区 竹内 結子

評 祝い事めでたいダジャレで鯛料理鯛の心境めでたくないタイ
作者らしい言葉遊びの歌で面白い。四句は「鯛は叫びぬ」がいいのでは。

無名氏

評 スカートに風天神は吹きまくりパンチラチラふともも菩薩
気持は判るが、歌にはおのずと品格が要求される。お社に賦詠となれば尚更である。

詠者 乗車券いづくにひそむ風の日を着て来しジャンパー隠しの多し

評 向かひホームのベンチに乙女坐りて膝小僧ひかる寒の日差しに
何処にでも直ぐ坐り込む若者ら上には呼ばれてゐるかも知れず



第五二〇回 俳句作品集

宗像市東郷宗像俳句会 吉田 杏子

一条の光となりて秋の川

三浦美千代

気球浮く空や影なき秋の色

田中 雨葉

落葉降る低き鳥居の村社

木原 房子

やわらかき落葉の坂を来て句碑に

編集後記

明けましておめでとうございます。一月は睦月です。家族、親族が集い、宴を開くなど睦む親睦月です。小生、今は妻を喪に罹り、初詣参拝の目標をお迎えしています。と思ひます。家族が一人増えて過した一年間を振り返ると、今までは生活や考え方が、がらりと変わった一年でした。正直、子供は苦手で、日常の生活は必要に迫られて愚息中心となつていますが、子供の泣き声に苛立たなくなり、他人の子供にも笑顔が出せるようになりました。▼「自ら親になるのではなく、子供から親にしてみよう」と言われたことがありますが、愚息が大人から親にしてくれているのかもしれない。▼とはいえず、常に誰かが見ていないといけないあの束縛は時にはたまりません。先日も目を離した隙に、ヒーターで指を火傷させてしまいましたし。▼歩くようになった昨年、日増しに目が離せなくなつていま、今年一年病氣もせず、健やかに過ごせたことに心から感謝しています。来年も家族三人大過無く過ごせたらと思います。これが日本が美しい国である？になる？為の根本かもしれません。(M.O)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社事務所
発行所 宗像大社

定価1年送料共1,000円